

() に語群の中から最適なものの番号を埋めよ。

1. () の指摘するところでは17世紀に至るまでヨーロッパ中世社会には() という概念がなかった。聖母子像に現れるイエスも、() として描かれていた。

2. 子どもへの愛着、愛情の発生は、根本には() の形成に伴うものとして理解できる。これを教育意識に転換させる「甘やかしを戒める」まなざしは、フランスでは() と呼ばれる道徳家によってもたらされた。

3. ヨーロッパでは() として、日本では() として、両者とも17,18世紀に直系家族が一般化していった。

4. () というのは、子どもが自分とは違った考え方と出会い、ぶつかる中で、自分の考え方の() に気づいて知的に成長していくものである。

5. 分かり合うコミュニケーションが何故に冗長に見えるかといえば、その半分が仕事の効率からみれば不必要な() に費やされているからだ。

6. 共に精神科学的教育学の立場に立ちながらも() は() への愛を強調し、() はあるがままの若人を肯定する愛を強調する。

7. () の必要性をいうのは、() の移ろいやすさや不安定さを規範意識で補おうとするものであるが、下手をすると干からびたものになってしまう。

8. ケア職者の多くは、対象にとりつかれ() する側面を強調する。これは自然なケアを生じさせ、義務の意識を不要にするという。

- | | | |
|----------------|---------------|-----------|
| 1. アリエス | 2. ショーター | 3. ルソー |
| 4. シュプランガー | 5. ベスタロッチ | 6. ボルノー |
| 7. ローチ | 8. ノディングス | 9. パスカル |
| 10. モラリスト | 11. 鉄身 | 12. 専心没頭 |
| 13. 成長可能性 | 14. 義務としての教育愛 | 15. 価値可能性 |
| 16. 長所や包括性 | 17. 事柄の理解 | 18. 価値可能性 |
| 19. 権力の関わり | 20. 短所や一面性 | 21. 心の理解 |
| 22. 国家からの離脱 | 23. 国家秩序との共存 | |
| 24. 共同体秩序からの離脱 | 25. 共同体秩序との共存 | |
| 26. 幼児期 | 27. 子ども期 | 28. 現代家族 |
| 29. 近代家族 | 30. 中世家族 | 31. 小さな大人 |
| 32. 愛らしいおさなご | 33. 矛盾止定的かかわり | |
| 34. 認知葛藤的かかわり | 35. 感情としての教育愛 | |